

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第43週 （10月21日～10月27日）

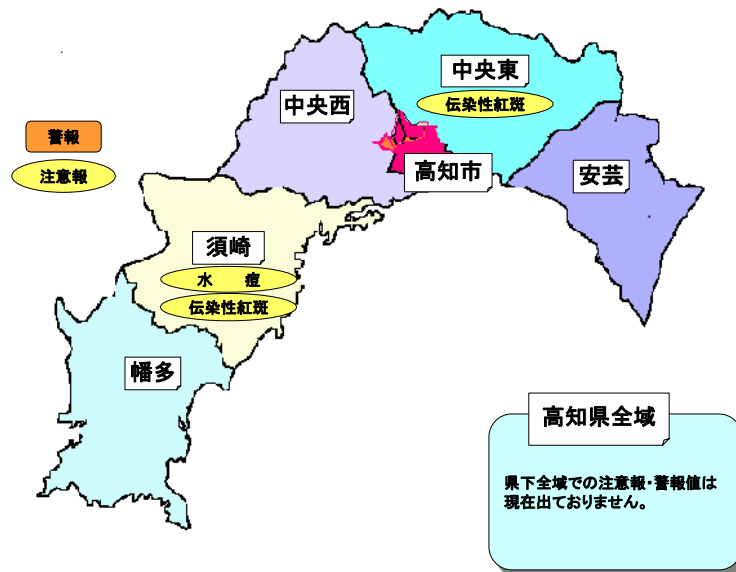
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1. 73	安芸で急減、中央西、須崎で減少していますが、中央東で急増しています。
感染性胃腸炎	↗	1. 70	須崎で急減していますが、幡多で急増、県全域、中央東で増加しています。
手足口病	→	0. 83	幡多、中央西で減少していますが、須崎で急増、中央東、高知市で増加しています。
伝染性紅斑	→	0. 70	中央西で急減、高知市で減少していますが、須崎、安芸、幡多で急増、中央東で増加し、中央東、須崎では注意報値を超えています。
咽頭結膜熱	↘	0. 50	中央西で急減、県全域、高知市、幡多で減少していますが、中央東で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

手洗い：感染症予防の基本は手洗いです

- ・ 爪は短く切っていますか？
- ・ 指輪・時計ははずしていますか？

- ① 石けんを泡立て、てのひらをよくこすります
- ② 手の甲、指の間や指先、ツメの間まで丹念にこすります
- ③ 親指をねじり洗いし、手首も忘れずにあらいます
- ④ 石けんを洗い流し、清潔なタオルで拭き取って乾かします

汚れの残りやすいところも丁寧に：指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手のしわ
タオルの共有は避けましょう



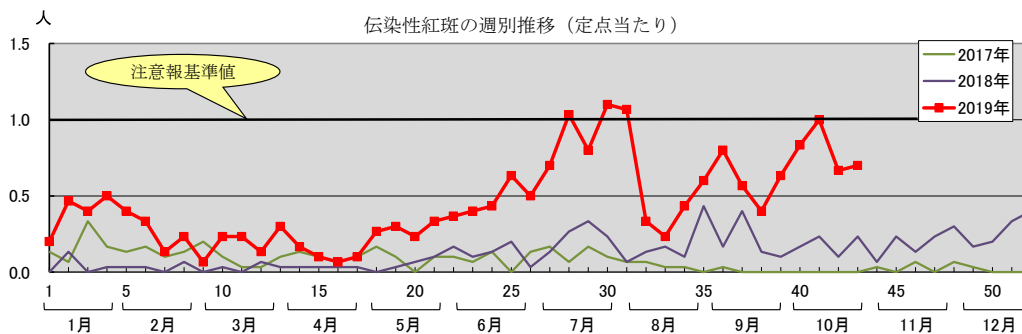
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



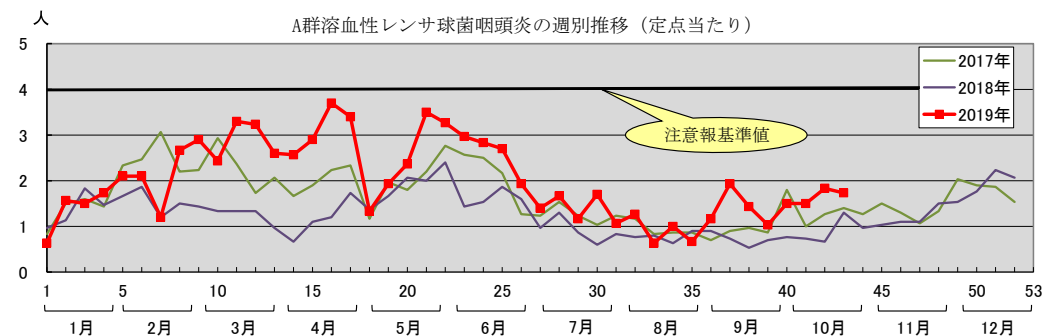
<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

この病気はA群レンサ球菌による上気道感染症です。

典型的な症状は、2～5日の潜伏期を経て、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などがみられます。1週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる全身症状を呈することがあります。



<予防方法> 手洗い、咳エチケットが有効です

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

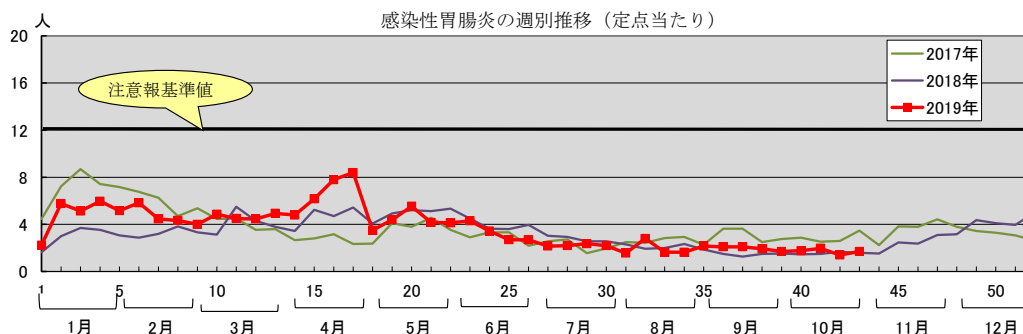
○感染性胃腸炎に気を付けて！

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは12～48時間程度、その他のウイルスは24～72時間程度、細菌は数時間～5日程度です。

感染性胃腸炎は1年を通じて発生していますが、ノロウイルスによる胃腸炎は、特に冬季に、ロタウイルスによる胃腸炎は、3月から5月にかけて乳幼児を中心に報告が多くなっています。発症してから通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長い時には1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。



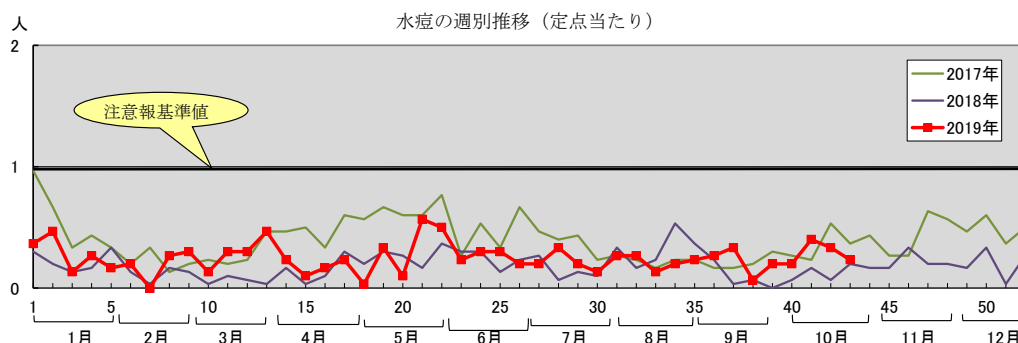
<予防方法> 手洗いが有効です

- ・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。
- ・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。
感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ・細菌による感染性胃腸炎の予防対策を心がけましょう
食中毒の一般的な予防方法【食中毒予防の三原則】食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理）です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kamren/yobou/040204-1.html
- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>
- 厚生労働省 「感染性胃腸炎（特にロタウイルス）について」
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaaku-kansenshou19/Rotavirus/top.html>

○水痘に気を付けて！

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で、一般には「みずぼうそう」と呼ばれています。患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染、水疱や粘膜の排出物に接触することによる接触感染により感染します。潜伏期間は2～3週間程度で、軽症で終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることが大半ですが、成人では髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度が高くなるなど、重症化することもあります。またウイルスが治癒後、体内に潜伏しており、何年も経て「帯状疱疹」として再発することもあります。



<予防方法>

有効な予防対策は予防接種です。2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種となっています。また、水痘患者に接触した場合でも、72時間以内にワクチンを接種すれば発病を予防したり、症状を軽減することが期待できるとされています。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所「ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
42	咽頭結膜熱	39℃,結膜炎,	1	男	高知市	Adenovirus 3
42	ヘルパンギーナ	39℃,上気道炎,	1	女	高知市	Coxsackievirus A5
42	感染症腸炎疑い	—	3	男	中央東	Coxsackievirus A5
42	咽頭炎	38℃,上気道炎,	1ヶ月	男	中央東	Coxsackievirus A5
42	—	39℃,	0ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus B2
42	感染性胃腸炎疑い	嘔吐,嘔気,	3	男	中央東	Coxsackievirus B5
42	R S ウイルス感染症	40℃,	1	男	幡多	Coxsackievirus B5

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間（2019年第36週～第40週）では、Coxsackievirus A16の検出割合が最も多く71%（42件）、次いでRhinovirusが7%（4件）、Coxsackievirus A6が5%（3件）、Coxsackievirus A10が3%（2件）、Coxsackievirus A9が2%（1件）、Echovirus 18が2%（1件）、Parecho virus 3が2%（1件）、Human herpes virus6が2%（1件）となっています。

<国内のインフルエンザウイルス検出状況>

国内のインフルエンザウイルス検出状況は、今シーズン直近5週（2019年第38週～第42週）では、AH1pdm09の検出割合が最も多く92%（101件）、次いでB（ビクトリア系統）が5%（5件）、AH3が4%（4件）となっています。

また、インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型4件、インフルエンザB型1件、不明1件の報告があります

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	97	80歳代 男	高知市
		1		90歳代 女	須崎
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	16	50歳代 男	高知市
	百日咳	1	146	5～9歳 男	幡多
		1		5～9歳 男	
		1		5～9歳 女	

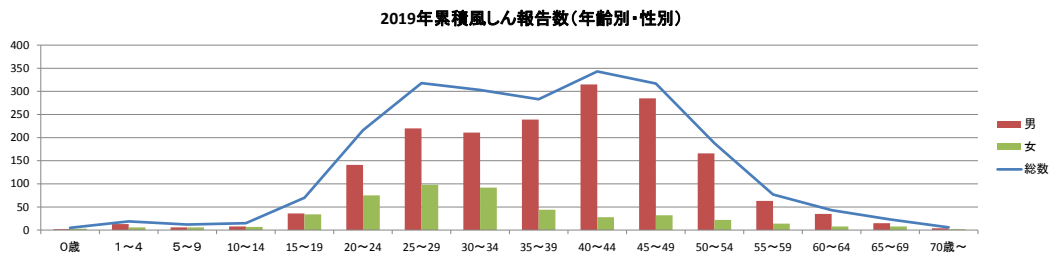
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	おひさまこどもクリニック	hMPV 気管支炎 2 例 (1 ヶ月女、2 歳男)
	早明浦病院小児科	保育園で手足口病流行 (1~5 歳 11 人) アデノウイルス感染症流行 (9 ヶ月~8 歳)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 2 例 (1 ヶ月男、1 歳男)
	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 3 例 (8 歳：いずれも Lamp 法陽性) アデノウイルス咽頭炎 2 例 (8 歳、12 歳) 病原性大腸菌 O-6 腸炎 1 例 (16 歳) カンピロバクター腸炎 3 例 (3 歳、11 歳、49 歳)
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症 1 例 (6 歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 9 例 伝染性紅斑 1 例 (6 才男)
	細木病院小児科	ノロウイルス 1 例 (10 歳男)
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 (アデノ) 1 例 (3 歳女)
幡多	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (3 歳女)
	こいけクリニック	前週 発熱と下痢 (Campylobacter jejuni) 1 例 (12 歳女)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 1 例 (2 ヶ月女)

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019 年第 1 週~42 週の報告数は 2,238 人となっており (2018 年の同時期全国で 1,546 人)、95% (2,117 人) が成人で、30 歳から 50 歳代の男性を中心に (男性 1,759 人、女性 479 人) に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、北海道、佐賀県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
 感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
 潜 伏 期 間 : 2~3 週間程度
 感染性のある期間: 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- 風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう (1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方)
- 風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで (妊娠初期) の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害 (先天性風しん症候群) をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにいる方 (夫、子供及びその他の同居人) は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。

抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として2019年4月1日から2022年3月31日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第5期)を実施しています。

2019年度は、

・1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け） <https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

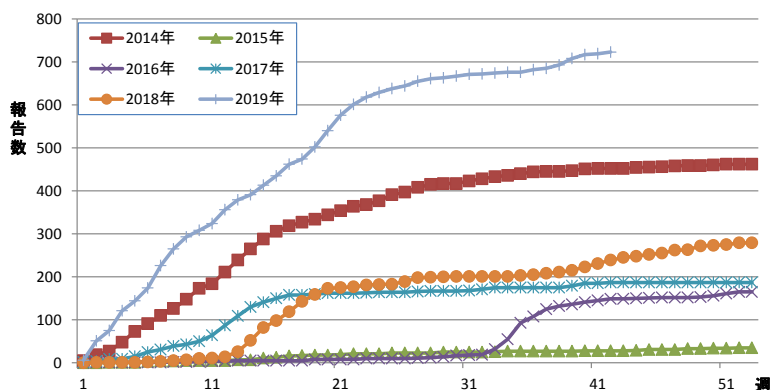
●衛研ニュース第20号（高知県衛生環境研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻疹に気を付けて！

麻疹については、平成27年3月27日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019年第1週～42週の全国の麻疹の報告数は723人と過去5年で比較して多い状態が継続しています（累積報告数：2014年462人、2015年35人、2016年165人、2017年187人、2018年279人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。

麻疹累積報告数推移(全国)



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成31年3月4日付け30高健対発第1886号「麻疹発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ①発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻疹の罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻疹を意識した診療をお願いいたします。
- ②麻疹を疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻疹患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第12条第1項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻疹の感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻疹について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaaku-kansenshou/measles/index.html

●麻疹（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

○デング熱に気を付けて！

デング熱（4類感染症）は、デング熱発生地域を旅行した際に現地で感染し、帰国後発症した輸入症例が昨今では年間200例以上報告されており、2019年は第42週現在389例報告されています。

2014(平成26)年		2015(平成27)年		2016(平成28)年		2017(平成29)年		2018(平成30年)	
高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国
2	341	1	293	0	339	0	245	0	198

今般、東京都内において海外渡航歴がないにもかかわらず、デング熱を発症した患者が確認され、国内の旅行先（奈良市内又は京都市内）で感染したと推定されています。デング熱を媒介するヒトスジシマカの活動は概ね10月下旬まだ続くとされていますので、蚊の防除対策等について適切な対応をお願いします。

また、熱帯や亜熱帯の全域や東南アジア、南アジア、中南米など流行地域へ渡航、滞在される方は、蚊に刺されないよう対策をとっていただくとともに、今後の流行状況等に注意して下さい。

デング熱について

症 状：発熱、頭痛、筋肉痛や発疹が主。まれに重症化し早期に適切な治療が行わなければ死に至ることも

感染経路：蚊を介して感染。発症した人が蚊に刺されると、その蚊にウイルスが移り、その蚊に刺された人に感染

蚊に刺されない様にするのが大切です

- ・肌を露出しない長袖、長ズボンを着用する
- ・素足でのサンダル履きを避ける
- ・白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ
- ・露出する部分には虫除けスプレーなどを使用する
- ・蚊取り線香などを使って蚊を近づけない



心配な場合は早めの受診を

- ・海外で発熱などの症状がでたら、出来る限り早く医療機関を受診してください
- ・帰国後に発症した場合や、症状が改善しない場合はお近くの医療機関または検疫所にご相談ください。医療機関を受診する時には、医師に渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて、詳しく伝えてください。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 令和元年10月21日付け元高健対発第1192号「デング熱の国内感染症例発生について」より)

デング熱の国内感染が疑われる事例につきましては、速やかに県福祉保健所又は高知市保健所へ情報提

供を行っていただくようお願い致します。

●デング熱・チクングニア熱・ジカウイルス感染症等の媒介蚊対策＜緊急時の対応マニュアル＞

<https://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/moscontman20190423.pdf>

●蚊媒介感染症の診療ガイドライン（第5版）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000477538.pdf>

●蚊媒介感染症（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164483.html>

●厚生労働省検疫所（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年10月28日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第43週 令和元年10月21日(月)～令和元年10月27日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)
												H30/12/31～R1/10/27	H30/12/31～R1/10/20	
インフルエンザ	インフルエンザ		1		3	1	1		6 (0.13)	4 (0.08)	3,550 (0.72)	13,904 (289.67)	1,464,544 (296.77)	
小児科	咽頭結核膜炎			4	7		1	3	15 (0.50)	19 (0.63)	1,059 (0.34)	708 (23.60)	56,603 (17.95)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	2	37	7	3	2	52 (1.73)	55 (1.83)	4,857 (1.54)	2,567 (85.57)	267,647 (84.89)	
	感染性胃腸炎		2	14	30			5	51 (1.70)	42 (1.40)	8,829 (2.80)	4,713 (157.10)	649,183 (205.89)	
	水痘			2	2	1	2		7 (0.23)	10 (0.33)	695 (0.22)	322 (10.73)	41,380 (13.12)	
	手足口病			12	3	2	2	6	25 (0.83)	22 (0.73)	4,609 (1.46)	2,555 (85.17)	369,128 (117.07)	
	伝染性紅斑		1	9	6	2	2	1	21 (0.70)	20 (0.67)	1,385 (0.44)	583 (19.43)	89,691 (28.45)	
	突発性発疹		1		1		1	1	4 (0.13)	12 (0.40)	1,122 (0.36)	424 (14.13)	53,197 (16.87)	
	ヘルパンギーナ					2		1	3 (0.10)	13 (0.43)	1,044 (0.33)	750 (25.00)	92,089 (29.21)	
	流行性耳下腺炎							1	1 (0.03)	1 (0.03)	268 (0.08)	40 (1.33)	12,957 (4.11)	
	RSウイルス感染症			1	4		3	6	14 (0.47)	36 (1.20)	3,889 (1.23)	1,226 (40.87)	120,120 (38.10)	
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	2 ()	1 (0.33)	286 (0.41)	
	流行性角結膜炎			1					1 (0.33)	2 (0.67)	435 (0.63)	56 (18.67)	18,955 (27.31)	
基幹	細菌性髄膜炎							1	1 (0.13)	()	10 (0.02)	3 (0.38)	377 (0.79)	
	無菌性髄膜炎								()	()	23 (0.05)	4 (0.50)	627 (1.31)	
	マイコプラズマ肺炎			1					1 (0.13)	3 (0.38)	167 (0.35)	117 (14.63)	3,914 (8.17)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	3 (0.01)	4 (0.50)	76 (0.16)	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	()	6 (0.01)	90 (11.25)	4,646 (9.70)	
計	6	44	95	15	15	27	202			31,953	28,067	3,245,420		
小児科定点当たり人数	(2.75)	(6.29)	(8.37)	(4.87)	(7.25)	(5.20)	(6.55)				(752.60)			
前週	4	37	117	32	15	34		239						
小児科定点当たり人数	(2.00)	(5.24)	(10.23)	(10.41)	(7.50)	(6.60)		(7.73)						

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第43週						計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/12/31～R1/10/27	H30/12/31～R1/10/20	
インフルエンザ	インフルエンザ		0.25		0.19	0.20	0.25		0.13	0.08	0.72	289.67	296.77	
小児科	咽頭結核膜炎			0.57	0.64		0.50	0.60	0.50	0.63	0.34	23.60	17.95	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.50	0.29	3.36	2.33	1.50	0.40	1.73	1.83	1.54	85.57	84.89	
	感染性胃腸炎		1.00	2.00	2.73			1.00	1.70	1.40	2.80	157.10	205.89	
	水痘			0.29	0.18	0.33	1.00		0.23	0.33	0.22	10.73	13.12	
	手足口病			1.71	0.27	0.67	1.00	1.20	0.83	0.73	1.46	85.17	117.07	
	伝染性紅斑		0.50	1.29	0.55	0.67	1.00	0.20	0.70	0.67	0.44	19.43	28.45	
	突発性発疹		0.50		0.09		0.50	0.20	0.13	0.40	0.36	14.13	16.87	
	ヘルパンギーナ					0.67		0.20	0.10	0.43	0.33	25.00	29.21	
	流行性耳下腺炎							0.20	0.03	0.03	0.08	1.33	4.11	
	RSウイルス感染症			0.14	0.36		1.50	1.20	0.47	1.20	1.23	40.87	38.10	
眼科	急性出血性結膜炎											0.33	0.41	
	流行性角結膜炎			1.00					0.33	0.67	0.63	18.67	27.31	
基幹	細菌性髄膜炎							1.00	0.13		0.02	0.38	0.79	
	無菌性髄膜炎										0.05	0.50	1.31	
	マイコプラズマ肺炎			0.20					0.13	0.38	0.35	14.63	8.17	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										0.01	0.50	0.16	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)										0.01	11.25	9.70	
計		2.75	6.29	8.37	4.87	7.25	5.20	6.55			752.60			
前週		2.00	5.24	10.23	10.41	7.50	6.60		7.73					
小児科定点当たり人数		(2.00)	(5.24)	(10.23)	(10.41)	(7.50)	(6.60)		(7.73)					

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第43週)

